

令和元年度 第1回北秋田市総合教育会議 会議録

1. 開催期日 令和元年5月30日(木)
2. 開催場所 北秋田市民ふれあいプラザ コムコム 大研修室
3. 開会及び閉会 開会：午後1時30分 閉会：午後3時36分
4. 出席者 北秋田市長 津谷 永光  
＜北秋田市教育委員会＞  
教育長 佐藤 昭洋  
委員 佐藤 正俊  
委員 佐藤 英樹  
委員 蒔苗 隆  
委員 藤本 基子
5. 欠席委員 なし
6. 出席職員 ＜教育委員会事務局＞  
教育次長 小笠原 吉明  
総務課長 金田 浩樹  
学校教育課長 小林 秀雄  
生涯学習課長 長岐 孝生  
スポーツ振興課長 藤野 義則  
総務課総務係長(書記) 三澤 照美
7. 案 件 (1) 令和元年度主な教育施策について  
(2) 意見交換

## 8. 会議録

小笠原教育次長	ただいまから、令和元年度第1回北秋田市総合教育会議を開催いたします。 はじめに、津谷市長より御挨拶をお願いいたします。
津谷市長	<p>皆様お疲れ様でございます。</p> <p>今年度、令和元年度となりまして、第1回北秋田市総合教育会議開催にあたり一言御挨拶を申し上げます。</p> <p>一昨日、川崎市内で小学生が事件に巻き込まれて亡くなるという大変痛ましい事件がございました。日頃、今日お集まりの皆様方は、北秋田市の子どもたちの安全安心のために御尽力いただいている方々でありますので、おそらく人ごとのようには捉えていらっしゃらないし、自分のことのように心を痛められたと思います。亡くなった子どもさんを含めて、被害者の方々に謹んで哀悼の誠を捧げたいと思いますし、事件発生直後に、北秋田市教育長名で各小・中学校に通達をされたようでありましたので、これからも、私どもはあのような悲しい事件が北秋田市で、全国でも起こらないようにしたいと思っているところであります。</p> <p>さて、教育委員の皆様方におかれましては、日頃より北秋田市の教育行政発展のために御尽力いただいておりますことに心から感謝申し上げます。</p> <p>昨日チャレンジデーがございましたが、お手元に結果報告が渡っております。おかげさまで62.6%という参加率の下に、5年連続の金メダルを獲得することができました。これもひとえに市民の方々の大変温かい御協力の賜物でありますし、準備から昨日夜遅くまで頑張ってくれたスポーツ振興課の職員を含めて、教育委員会の職員の皆さんに心から感謝申し上げます。</p> <p>相手は73.4%という高い参加率でしたが、これにめげずに、私どもも来年を目指して、勝敗に関わりなく北秋田市民のスポーツ、健康のために参加していきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。</p> <p>平成27年度から施行された新教育委員会制度も5年目を迎え、今回は佐藤英樹教育委員に初めて参加していただく総合教育会議となります。どうかよろしくようお願い申し上げます。</p> <p>昨年度の第2回総合教育会議では、教育大綱に基づく主要な施策実施状況と次年度の重点施策等について、皆様から活発な御意見をいただいたところであります。</p> <p>今年度の主な事業としましては、令和2年4月の鷹巣中学校と鷹巣南中の統合に向けて、鷹巣中学校の大規模改造工事を発注しております</p> <p>また、国立市との交流につきましては、昨年10月に友好交流都市協定を締結し、昨年は当市の教員が国立市を訪問しました。今年度は国立市から教員の方々に当市を訪問していただく予定で、両市の友好関係を更に深めながら、教育行政の発展、子どもたちの交流に繋げていきたいと考えております。</p>

津谷市長	<p>今日の会議は、今年度の主要な教育施策が議題の中心となりますが、教育委員の皆様から貴重な御意見を賜りますようお願い申し上げまして、開会の御挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。</p>
小笠原教育次長	<p>ありがとうございました。 続きまして、佐藤教育長から御挨拶をお願いします。</p>
佐藤教育長	<p>皆様、こんにちは。</p> <p>先般、文化会館で、本市ゆかりの作家、佐藤鉄章と辻美沙子の二人展を行いました。佐藤鉄章は、私の大好きな鷹巣南中学校の校歌の作詞者であったことから見に行ったら、そこに、昭和39年8月1日発行の広報誌「あきた」の「わが秋田」に寄稿した、大館桂高校教諭時代の佐藤鉄章の随筆が展示されていました。「わが県北」と題した文章に、県北の人間を松の木に例え、「雪の重みに堪えていた松の枝が、ある時、突如として全身の力でそれをはねのけることがあるように、県北人にもそれがある。」と記してありました。この随筆の最後には鷹巣の事が書かれており、「北秋田の中心は鷹巣町だ。」とあり、「昔から大館市と張り合ってきた町で…」当時は鷹角線が開通することを目標にしていたようで、資源の開発など「前途ははなはだ明るい。」と結んでおります。</p> <p>この2年間、学校教育、社会教育、文化・スポーツ振興と、本市の生涯教育全般を幅広く見てきましたが、市民の取り組む様子が当にその状況を示しているように感じています。資源の問題は当時とは違っていますが、教育の面では市民の皆さんに明るい要素がたくさんあるのではないかと感じています。</p> <p>一つ一つ、一人一人の学習や活動は、決して派手ではないが、着実に積み重ねられており、小・中学生の学習の成果や一般も含めたスポーツの成果が、数字としても昨年は現れていました。浜辺の歌音楽館や縄文館、市民プールなどの施設の利用者が増えているのも、市民が文化やスポーツに関心を持って取り組んでいる現れだと感じております。</p> <p>小・中学校の児童生徒数は、5月1日現在で1,741名で、昨年度より84名も減少しておりますが、今年度は鷹巣東小学校をスタートに、学校運営協議会が各学校で動き始めました。今年は6校の予定ですが、来てくれた地域の方々が、学校と一緒に地域をつくっていくという気概をもって参加してくださいました。この地域をこよなく愛し、この地域で暮らす皆さんが、笑顔一杯でより充実した生活を送れるよう、教育委員会としても様々な挑戦をしていきたいと考えております。</p> <p>本日の総合教育会議では、教育委員会の今年度の主な教育施策について、事務局からの提案がありますが、委員の皆様からも忌憚のない御意見を頂けますようお願いし、私の挨拶とさせていただきます。</p>
小笠原教育次長	<p>ありがとうございました。</p>

小笠原教育次長	<p>それでは、早速ですけれども案件に入らせていただきます。</p> <p>北秋田市総合教育会議運営要綱の第3条により議長は市長が行うこととなっておりますので、津谷市長に案件の進行をお願いしたいと思います。</p> <p>津谷市長よろしくお願いたします。</p>
津谷市長	<p>それでは、要綱に従いまして暫時、議長を務めさせていただきますので御協力をお願いいたします。</p> <p>早速案件に入らせていただきます。案件（1）令和元年度主な教育施策について各課から説明をお願いします。</p> <p>はじめに、学校教育関係について、総務課と学校教育課から説明をお願いします。</p>
金田総務課長	<p>主な教育施策、総務課分を御説明いたします。</p> <p>1. 学校統合に伴う学校校舎大規模改造工事関係については2件ございます。一つは、令和2年4月に鷹巣中学校と鷹巣南中学校の統合に伴う鷹巣中学校校舎大規模改造工事です。鷹巣中学校は建築から24年経過し、屋根防水の劣化による雨漏り、外壁の亀裂等が著しいことから改修するものです。また、統合による教職員の増加により、職員室の拡張や校長室の移動、特別支援教室等の整備、各教室にエアコンの設置、キュービクルの入替え等の工事で、工期は令和2年2月28日までです。もう一つは、令和3年4月に鷹巣中央小学校と鷹巣南小学校が統合し、現在の鷹巣南中学校校舎を使用するため、校舎の大規模改造工事の設計業務委託です。屋根の防水、外壁補修、床の塗装、エアコンの設置、トイレの洋式化等を予定しております。こちらも工期は令和2年2月28日です。</p> <p>2. 学校施設修繕事業については、小学校4校、中学校2校を計画しています。鷹巣小学校教室塗装工事は、低学年棟の6教室。防球ネットは野球グラウンドサイド側の一部張り替え。鷹巣東小学校と綴子小学校のトイレ改修工事は、学校施設の長寿命化計画に基づき洋式化にする工事です。鷹巣東小学校の屋根防水シート張り替え工事は、管理棟屋上の全面張り替え。米内沢小学校のグラウンドフェンス改修工事は、約50mに渡り支柱が傾いていることから立直すものです。阿仁中学校では、給食の運搬車から搬入口までの屋根が無いことから、屋根をかける工事で、より一層衛生管理が向上するものと考えています。合川中学校は、体育館屋根の防水シート張り替えと、柔剣道場屋外階段の塗装工事をを行います。</p> <p>3. 給食センター配送車購入は、南部給食センターの平成5年購入の配送車を更新するものです。配送車の所有台数は、北部3台、南部1台、もりよし4台の計8台となっています。</p> <p>4. あきたリフレッシュ学園と教育留学推進事業については、5月1日現在の利用者は、あきたリフレッシュ学園は15名、教育留学事業は学習交流型が</p>

金田総務課長	<p>小学生1名、生活改善型が中学生1名、ともに北海道から来ています。なお、6月3日から学習交流型で東京都から小学生が1名参加する予定です。また、短期チャレンジ留学Ⅰ期は8月16日から19日で、生涯学習課のマタギの地恵体験事業とタイアップして行います。Ⅱ期は12月25日から29日までの予定です。</p> <p>以上総務課分です。よろしくお願いします。</p>
津谷市長	次に学校教育課をお願いします。
小林学校教育課長	<p>学校教育課分を説明させていただきます。</p> <p>1. 持続可能な学校指導・運営体制構築に向けた働き方改革の実現。昨年度から活用している校務支援システムでは、今年度から保健に関する機能についても活用を始めています。養護教諭が活用していますが、これまでも他社のソフトを使っていた関係で、使い勝手に慣れたり、違いに戸惑ったりということがあるので、研修を実施していきます。また、昨年度も夏休みの時期にアンケート調査を実施していますが、導入によってどのような効果が現れているか経年比較するために、今年度も調査を実施し、効果の検証と一層の活用への支援を行っていきます。二つ目の勤務時間管理の客観性を高め負担を軽減する出退勤システムの検討については、昨年度も検討はしていましたが、今年度も導入に向けて検討を進めていきたいと思えます。勤務時間管理という点では、教職員の働き方改革が昨年度随分叫ばれており、先生方の負担軽減、勤務時間が長すぎるとの声が全国で上がっておりますが、改善していくためには、まずは客観的に勤務時間を把握する必要があります。現在は、自己申告した数字をまとめているに過ぎないので、ICTを活用しながらデータを得る必要があることと、即時性のある時間の把握につなげていきたいと考えています。</p> <p>2. 小・中学校の再編です。鷹巣中学校・鷹巣南中学校の統合に向けた準備と取組を進めていきます。先日、鷹巣中学校の校旗を発注しました。現在の中学校1年生は、(両校とも)鷹巣中学校の体育着で体育の授業を行っておりますが、学習用品だけではなくて、生徒同士の交流も考えられています。鷹巣南中学校の閉校に向けた取組の支援では、中学校の方で閉校に向けた実行委員会を作って話し合いを進めています。11月24日に閉校記念式典を行う予定で動いているようです。教育委員会としては、3月の閉校式を考えていきたいと思っています。鷹巣中央小学校・鷹巣南小学校の統合に向けた準備と取組では、5月28日に第1回の統合準備委員会を行いました。中学校と違うのは、新しい小学校を創るという考え方のため、校名を考えたり、校歌、校章など様々なものを作っていくため、準備委員会の頻度は増えるものと考えています。阿仁合小学校・大阿仁小学校・前田小学校統合の方向性の決定については、今年、阿仁合小学校、大阿仁小学校のPTA総会に行き、「今年度は1年間をかけて、これから先どんなことが望ましいかをお伺いさせていただきます」と話し</p>

<p>小林学校教育課長</p>	<p>てきました。0歳～15歳の子どもの持つ保護者の話合い、地域の人を巻き込んだ話合いをそれぞれの地区ごとに行っていきたいと考えています。阿仁中学校・森吉中学校統合の方向性の決定についても、小学校と分けずに一緒の会で意見を聞きながら話合いを進めていきたいと考えています。それが、下段に記している阿仁合地区・大阿仁地区・前田地区における意見を伺う会の実施です。当初は、小学校は小学校、中学校は中学校の保護者でと考えていましたが、数年後小学校の保護者は中学校の保護者に、小学校の事を考える時には、未就学の親も入るべきと考えて、校種ではなくて地域ごとに様々な意見を伺いたいと考えています。</p> <p>3. 新学習指導要領移行期間への対応です。小学校は令和2年度から、翌年には中学校の新学習指導要領が全面実施になります。様々な相違がありますが、教育センターの事業や、推進監による学校訪問を行って指導・助言に努めていきたいと思っています。児童指導要録・生徒指導要録の様式変更については、各教科の評価の観点四つが三つに変わります。どういった考え方に基づいて変更になったのか理解が得られないと、ただ様式を変更するだけでは間に合わないので、指導・助言を通して周知していきたいと思っています。小学校の外国語科・外国語活動の実施に向けたALTの配置については、現在7名のALTが各中学校に配置され、その中学校区の小学校に行き、全ての小学校の外国語授業にTTの形で入っています。来年度は授業の時間が、小学校5・6年生で50時間から70時間に、3・4年生では15時間から35時間に増えますが、7名のALTで充分対応できると考えております。令和2年度使用小学校教科用図書の調査・研究と採択では、小学校の教科書は、来年度全ての教科等で変わることになります。今年度は採択の年になりますので、各校の協力を得て調査研究を行い、市の意見をまとめ、採択地区である大館市、上小阿仁村の教育委員会と連携して新しい教科書を採択する見込みです。</p> <p>4. 学校・家庭・地域が連携し支え合う取組。学校運営協議会の取組ですが、今年度小学校5校、中学校1校で発足しています。保護者や地域住民の等の意見を学校運営に反映させていきたいと考えています。</p> <p>以上です。</p>
<p>津谷市長</p>	<p>ただいまの総務課と学校教育課の説明について、御意見や御質問をいただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p>
<p>佐藤正俊委員</p>	<p>臨時教育委員会の時に、統合に向けた取組について、校舎の平面図などを見ながら、どういう学校になるのかイメージができてよく分かりました。私が記憶にあるのは昭和47年の森吉中学校、平成3年の阿仁中学校の統合です。先程、中心校という話がありましたが、市民にとって誇れる中学校を造ってほしいと感じています。また、その後、鷹巣南中学校の校舎が小学校の校舎に変わります。今の校舎は階段の高さや体育館の造りなど、中学生用になっていると</p>

佐藤正俊委員	思うので、できるだけ小学生に合った、特に低学年に事故のないような改修してほしいと思います。
金田総務課長	現鷹巣南中学校の改修について、委員が言われるとおりの問題があります。階段の高さを全て変えると、より大規模になるため、手摺を付けると小学校用にクリアできるという事もありますので、検討しながら進めていきます。ほかに、柵の高さ、フックなど細かいところがたくさんあると思いますので、その都度、小学校の意見を伺いながら設計に反映させていきたいと思っています。また、プールは中学校でするので小学生用がありません。小プールも含めた新しいプールも想定しています。
津谷市長	きめ細かく意見を聞きながら行うということです。 そのほかにございますか。
藤本委員	今年もお願いしますが、小・中学校のトイレの洋式化を毎年少しずつでもお願いしたいところです。森吉中学校の体育大会の時に、使えるお手洗いが1か所に限定されていることもあったかと思いますが、祖母の方々からも洋式を望む声が出ていましたし、特に子どもたちは、小学校が新しい校舎できれいなお手洗いを使用していたところ、中学校では用が足せないとの声も聞こえてきますので、ぜひお願いしたいと思っています。
金田総務課長	学校の長寿命化計画を策定しておりまして、今年度は鷹巣中学校と鷹巣東小学校、綴子小学校を、来年度は統合小学校と森吉中学校、阿仁中学校、合川中学校の洋式化を計画しています。
藤本委員	そこで全部ですか。
金田総務課長	はい。全部が洋式化になります。
佐藤英樹委員	私から2点お願いします。一つはあきたリフレッシュ学園と教育留学推進事業についてです。昨年度の事務点検及び評価会議でも発言させていただきましたが、県ではリフレッシュ学園の利用者が少ないと補助を打ち切っていると思うのですが、以前、県青少年交流センターでひきこもりの子どもたちへの授業もやった経験もあり、今回の川崎市の悲惨な事件を見ると、ひきこもりであった方が大きな事件を起こした経緯もありますので、この事業も引き続き充実させてもらいたいと思います。なおかつ、教育留学も、市で推進している移住定住にも結び付くような展開をしていくといいのではないかとお話しさせていただきましたので、今後も力を入れてほしいと思っています。二つ目は、学校教育課の小・中学校の再編についてですが、統合に向けて生徒同士の交流は何度も

佐藤英樹委員	必要だと思いますが、この地区の高校統合に当たっては生徒だけでなく、職員間でも交流を図って進めた経緯もあります。いざ統合となるといろいろな課題が出てきますので、その前に解決する手立てを考えながら進めてほしいと思います。
津谷市長	ただいまの意見についていかがですか。
金田総務課長	あきたリフレッシュ学園事業については、現在は市の事業となっていますが、県から社会教育主事を派遣していただいておりますので、不登校の子が学校復帰できるようにがんばっていきたくと思っています。教育留学事業については、県から補助金を受けて運営しています。
佐藤正俊委員	職員として付け加えると、現在、教育留学の方は、6月から3名になります。2学期からは、新たに3名から問合せあり対応しているところです。
佐藤教育長	補足すると、全国都市教育長会議でも宣伝してきましたが、市の誇るべき教育資産だと私は思っています。今後も問合せがあつて然るべきだし、特に協定を結んでいる国立市でも不登校の子どもたちが多くと教育問題として取り上げられておりました。7月に国立市から校長が6名来る予定ですから、施設も見てもらいながら、不登校の子どもたちが本市で心を耕して、将来的に本市にも貢献できる東京都の子どもたちができればと考えているところです。
津谷市長	あきたリフレッシュ学園は、皆さん方の力をいただいておりますが、不登校やひきこもりの子どもたちに対しては、本来は県がしっかりやらなくてはいけない。秋田県ではあきたリフレッシュ学園を含めて、県がいいことを実施しているというような話はされますが、実際は皆さんや地域の方々がんばっていただいているということですから、もっと県や国の手立てがほしいと思っています。ただ、私たちが言ってもなかなか響きませんし、時間がかかります。今度、国立市から先生たちが来ますし、国立市を含めて都会から来る人たちにアピールしていただくと、県や国の考え方も変わってくるのかと思います。そういう面では期待しておりますのでよろしくお願いします。
佐藤正俊委員	学校教育課の方に、統合の準備と取組について説明がありましたが、備品の取扱い方について、南中が鷹巣中に入った場合に、残った備品を市内の小・中学校がほしいとすれば希望を取るのかどうかを伺います。お金をかけて購入した訳ですから、持って行く時には乱雑にしないで、一定のルールを作って、しっかり管理しながら引き渡してほしいと思います。一つの例として、根子小学校は現在体育館だけが残っていて、伝統芸能の伝承館になっています。廃校に



佐藤正俊委員	<p>なった時には校舎も付いていたので、自治会が管理していました。お盆などで帰省した人が校舎を覗いた時に、いつ見ても懐かしい校舎が大事にされていることが地域の人にも分かるような管理の仕方が必要だと思います。</p>
小林学校教育課長	<p>まず、佐藤英樹委員の「職員間の交流も進めてほしい」という点ですが、全く同感です。統合準備委員会とは別に、学校の中での準備委員会も並行で行っています。ルール作りも学校間でいろいろな話をしなければ決められないので、昨年度から管理職、教務主任、学年主任レベルのところでは何回か集まって話し合いをしています。この後、生徒同士については、昨年度は今の2年生がなべっこやレクリエーションを一緒にやったりしていますが、両校から今年は更に広げていきたいと聞いています。</p> <p>佐藤正俊委員の話とも絡みますが、備品については、南中で使っている備品を全て持っていくことはできないので、長期休み等を利用して仕分ける算段になっているようです。学校図書については、既に司書が少しずつ分別していると聞いています。いずれ統合に当たり、生徒、職員、保護者同士の交流も必要だと思っていますが、統合準備委員会のメンバーがPTAの役員や振興会、各地域の役員になりますので、顔見知りになって新しい学校でも活動していただければいいなと感じています。</p>
津谷市長	<p>ほかに何かございませんか。</p> <p>この後、意見交換もごさいますので次に移りますが、ただ今いろいろな御意見や御提議をいただきました。十分反映させながら今年度の各事業を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p> <p>次に生涯学習課長からお願ひします。</p>
長岐生涯学習課長	<p>生涯学習課の主要な施策を説明させていただきます。</p> <p>1. 生涯学習事業の推進について。公民館講座は、コムコムを含む12公民館で35定期講座を開講します。そのほか、今後移動講座や短期講座も行われる予定です。合川公民館の活動の特徴である「ろばた講座」は、昨年まで161回という回数を重ね、年3回を予定しています。高齢者大学は、四つの高齢者大学で合計437人によるスタートとなりました。高齢者の生きがいづくりはもちろんです、後世に引き継ぐ役割を担っていただくような重要な事業と考えています。高校生協働地域活性化事業は、自由な発想の下、地域の事を考えて提案し、行動することをねらいとしています。昨年からJDK（女子男子高校生）による「高校生が選んだ飲食店20」というマップ作りに取り組んでおり、地域の店をPRすることを進めています。</p> <p>2. 時代を担う子どもの未来につながる事業について。学校・家庭・地域連携事業は、地域学校協働本部や家庭支援、放課後子ども教室がその内容となっています。地域学校協働本部は、中学校区ごとに設置され、地域ができること</p>

長岐生涯学習課長	<p>を学校と一緒に考え、地域の学校として協働していくことを目的としています。学校運営協議会のスタートに伴い、双方のベクトルを同じ方向に向け、より良い地域を作っていけたらと考えています。コーディネーターとして32名にお願いしています。家庭教育支援については、8名の支援員の質の向上のための研修を受けながら事業を展開しており、昨年は絵本ライブやお茶っこサロンなどを開催しています。放課後子ども教室は10か所で行っておりますが、指導員が不在となっている地区があり、開催回数が教室毎にばらつきがあるなど課題となっています。手薄なところは、公民館に手伝ってもらいながら開催している状況です。次に、放課後児童クラブは、現在10施設15教室で579人の利用予定となっています。運営形態として、社会福祉協議会への委託が5施設7教室、直営が5施設8教室です。職員55名の内、37名が支援員、18名が指導員として子どもの安全を確保しています。1教室に支援員2名、指導員1名の配置を原則としていますが、合川、米内沢の支援員が欠員となっており募集しているところです。鷹巣中央小学校、南小学校の統合小学校の児童クラブについては、旧鷹巣南中学校竜森寮を改修する予定で、今年度設計委託を予算計上していますので6月中の発注を目指しています。子育て世代支援（ねまーる広場）については、自由来場と一時預かりで、一時預かりはコムコムで講座などを受講している間預かるもので、藤里町、能代市、大館市など県北他市からの利用もあります。平成30年度は、自由来場が3,345人、一時預かりが52回136人となっています。国立市文化交流事業（マタギの地恵体験学習会）については、8月16日～19日開催。総務課の短期教育留学とのタイアップで県外から15名、国立市の子ども15名と保護者15名、市内の子ども15名の募集を予定しています。</p> <p>3. 北秋田市民ふれあいあいプラザについて。来館者は、昨年度までの通算で80万1千人を超えています。4月現在の利用を加えると、84万3千691人となっており、100万人の来場者は11月頃になるのかなと思います。利用者の利便性の向上とにぎわい創出の波及については、にぎわいづくり委員会を立ち上げ、高校生3人を含む13人の委員で構成し、コムコムの利用の仕方について協議・検討していただいています。</p> <p>4. 「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産登録の推進について。17遺跡で構成されており、昨年度国内推薦候補に選ばれましたが、昨年は自然遺産が候補となりました。今年度は、縄文遺跡群一つに絞って審査するとのことでしたので、国内候補となる可能性が高くなっています。その中で、世界遺産登録推進総決起大会が6月10日東京で行われます。縄文遺跡群共通サイン整備事業は、協議会へ負担金として支出している中から行う事業で、17遺跡の統一したストーリーを持たせるような看板を作る予定です。</p> <p>5. 伊勢堂岱遺跡ジュニアボランティアガイド事業について。今年度は43名の登録となっています。既に、4月27日の連休から昨年の経験者で行っており、10連休であったことや昨年の天候との違いはありますが、昨年707</p>
----------	---

長岐生涯学習課長	<p>人の来場者に対し、780人が来場しており、ジュニアボランティアガイドも好評を得ております。7月26日～28日に事前研修会を行い、実際のガイドは夏休み中の8月3日～18日を予定しています。</p> <p>6. 出張美術館について。秋田県近代美術館の所蔵する美術品を北秋田市で見えていただく企画です。県北の作家の作品など、現在協議中です。たくさんの方に来場していただけるようPRしていきたいと思っています。</p>
津谷市長	<p>ただ今説明がありました生涯学習課の内容について、御意見、御質問はございませんか。</p>
藤本委員	<p>先日の会議の後に、伊勢堂岱遺跡を御案内いただきましてありがとうございました。その時に感じたのですが、縄文館から遺跡に向かう道の砂利が荒くて危ないと思いました。特に、遺跡から縄文館に戻ってくる道が下りになって滑りそうになったので、端の土の上を下りてきました。その時見学しながら話しましたが、木材のチップなどを敷いた方が安全ではないかと話しながら下りてきました。</p>
長岐生涯学習課長	<p>御指摘のとおりでございまして、一般の方からも上りよりも下りが危険だと指摘がありました。遺跡内ですので現状変更の届け出は必要となってきますが、今年度予算措置してあります。木材チップではありませんが、簡易に締め固めする予定になっています。時期については、1日でできれば休館日に行いますが、できるだけ早く対策できるよう考えています。</p>
佐藤正俊委員	<p>付け加えますが、藤本委員と一緒に歩きながら、女性はハイヒールを履いていると、砂利が大きくて傷が付いてしまうし、何かいい方法がないかと二人で話していたところでした。先日、北欧の杜公園のコースをあきたりフレッシュ学園の子どもたちとサイクリングしたらとても良かったです。できれば早めに、誰でも何を履いても行けるような場所であってほしいと思います。もう一つ、坂道を歩いて行くと作業小屋が目立ちます。移動するには費用もかかりますし、人目に付く場所ですから、何か方法がないかと考えて見ました。お金をあまりかけずにとすると、木で作った塀をまわすと中は見えないなと考えました。できたらそうしたらいいのかと感じています。検討をお願いします。</p>
長岐生涯学習課長	<p>昨年、文化庁の方が景観の関係で来られまして、プレハブとトイレは指摘されています。例えば、葦簀で目隠しするなどを考えましたが、プレハブは移動することで予算を計上しています。簡易トイレは、来場者やボランティアガイドに使ってもらったのですが、縄文館ができてから使われていないので、併せて撤去の予定としています。加えて、「国史跡伊勢堂岱遺跡」の大きな看板も遺跡内にある構造物だということで、景観上よろしくない指摘されています。</p>

長岐生涯学習課長	す。それも今の場所からは無くすことを予定しています。
津谷市長	道をウッドチップにしたり、正俊委員が言われたように北欧の杜公園のような歩道にしても、作業する人の道具を運ぶにはあの道路を使うしかないとすれば、そこをうまく調整できますか。
長岐生涯学習課長	ウッドチップにはなりません、現在の物は再生コンクリートの破砕材なのでかなり大きく、また、クマ対策のために機械が入った際により傷んだので、オープンに間に合わせるために急遽入れて安定させた物です。今考えているのは、採石の小さい物を乳剤で固めるという方法で考えています。
津谷市長	各委員から御指摘があったように、上に行って下りてくるときが危ないので、いい方法を考えてください。 ほかにありますか。
蒔苗委員	ジュニアボランティアガイドの養成についてお尋ねします。年に何人くらい集めて、誰が指導して、もし世界遺産になったら需要が増えてくると思いますが、そうなった場合にどうしようと思っていますか。
長岐生涯学習課長	ジュニアボランティアガイドは、昨年は40名、今年度は43名ですが、小学校4年生から高校生まで継続していただいている方がいます。十数名の入替はありますが、現在は40名前後で推移しています。指導については、縄文館の中嶋館長がマニュアルを作って指導しています。ジュニアボランティアガイドについては、学業もありますので、連休と夏休み限定になります。世界遺産に向けてガイドの需要が高まってくることは予想されますが、20年間やっていたお現在のワーキンググループは、高齢化が進んでおります。昨年からはボランティアを募集しながら、職員も含めてガイドに参加しており、特に生涯学習課の職員はガイドできるようにしたいと進めています。ただ、インバウンドにつきましては、仮に英語などができても、直接ガイドするには遺跡という特殊な性質もありますし、なかなか厳しいものもございます。今、県の事業で国際教養大学と伊勢堂岱遺跡がコラボレーションしながら、ジュニアや高校生については英語でのガイドも進めています。ワーキンググループの方々には、そこまでは厳しいので、英語など多言語バージョンのビデオを見ていただいてから回るなど、そういう方向で対応していく必要があるのかと考えています。
津谷市長	ほかにございませんか。

佐藤英樹委員	生涯学習関係の事業については、在職中、運動部はもちろんですが書道部など、様々な文化部が生涯学習課にお世話になりながら活動の場を増やしていただいた訳ですが、卒業生を市役所職員として採用していただいたり、大変嬉しかったと今思い出しております。この事業の中で、高校生が活躍できる事業が盛り込まれておりますし、身近なこの地域を担っていくのは高校生だと思いますので、引き続き高校生の活躍する場を作っていただければ大変ありがたいと思います。よろしくお願いします。
津谷市長	ありがとうございました。佐藤委員からお話しがありましたが、北鷹高校から今年の授業の一環として、人口減少を含む北秋田市の課題を学ぶということで、最初の概略的な事を私が講演させていただきました。その後、福祉や総合政策など様々な担当職員から高校生が教わって、北秋田市のためにがんばりたいと活動していますので、とても楽しみにしています。このような形でつきあいができればいいと感じています。
佐藤英樹委員	今後ともよろしくお願いします。
長岐生涯学習課長	加えて、今年は生涯学習奨励員の中に、県内で初めてといわれていますが、高校生2名を入れています。
津谷市長	それでは、何かあれば後で御意見をいただくということで、次にスポーツ振興課からお願いします。
藤野スポーツ振興課長	<p>スポーツ振興課の主な教育施策について。</p> <p>1. 体育施設修繕などスポーツ環境の充実について。全てに共通しますが、当初予算に基づいた施策になっています。はじめに、鷹巣体育館サブアリーナ遮光カーテン設置、看板の新設については、長年要望の出ていた遮光カーテンを設置し、午後の日差しが緩和されることにより、利用しやすい環境を整えます。また、障害者就労支援施設ができてから、道路から見えなくなってしまった看板を、かなりくすんでいることもあり、別の位置に新たに設置する作業を進めています。鷹巣体育館の今後の方向性に係る検討については、昭和48年の建築である体育館は、耐震診断では倒壊の危険性が指摘されています。税法上の耐用年数、補助金の耐用年数も迎えており、いよいよ改築か新築か、場所、体育館の規模の検討を進めてなければなりません。慎重に、今後の検討となる素案を年度内にまとめる予定です。市民プール採暖室内装改修、トレーニングルームのエアコン交換については、採暖室の内装は寒い時期に合わせて、エアコンは寒くなる頃になるのかもしれませんが、作業を進めています。森吉野球場については、照明塔及びスコアボードは危険性が指摘されており撤去します。球場が使用されなくなってしまうからの冬の工事になる予定です。将来的に多</p>

<p>藤野スポーツ振興課長</p>	<p>目的運動場として活用する方向で具体案を検討していきます。</p> <p>ここまでは、予算計上したのですが、新たな問題として、現在湯口内のスキー場は圧雪車の修理が厳しく、ロープが作業中に切れてリフトが使用できず、スキー授業も断念せざるを得ない状況です。阿仁地区の2か所のスキー場の運営について、その方向性を協議していかなければなりません。また、合川球場の座席とバックネットの傷みが著しく、予算計上されていませんし、3か年計画にも載せていませんので、今後、協議の必要があります。</p> <p>2. 生涯スポーツの推進と各種大会等スポーツを通じた地域活性化。スポーツ・文化活動合宿を行う団体への経費の一部補助については、ここ数年は立正大学剣道部だけでしたが、今年度は三井住友海上陸上競技部の合宿が決まり、予算は使い切ることとなります。新たな問合せが2件ほどきていますが、実施までこぎ着ければ予算が不足することとなります。チャレンジデー2019参加率65%以上達成・5年連続の金メダル獲得は、参加率は目標を達成できませんでしたが、5年連続金メダルは獲得しています。100キロチャレンジマラソン参加者拡大のためのPR活動は、大会事務局と情報を共有し、連携を深めながらPR活動を続けていきます。</p> <p>3. スポーツ指導者の育成と競技力の向上については、指導者講習や研修に関する情報提供、体育協会・スポーツ少年団・各種団体・総合型スポーツの情報収集をしながら、スポーツ大会保険に対する補助により、指導者への育成や競技力の向上を図ることにしています。</p> <p>4. 北秋田市スポーツ推進計画の次期計画準備については、現行の計画に基づいた実施事業の検証・分析を行い、方針内容の検討を付けて、見直し等次期計画策定に向けた作業を進めます。</p>
<p>津谷市長</p>	<p>ただ今の説明について、御意見や御質問はございますか。</p>
<p>藤本委員</p>	<p>チャレンジデーの結果ですが、昨年、ほかの市のQRコードの話をしたところ、今年は北秋田市もチラシに載っていたので、QRコードを使って報告させていただきました。昨年見たほかの市の報告画面よりもシンプルでとても分かりやすかったですし、選択するところもはっきりして流れも良く、送信も早くできてよかったです。昨年、ファクシミリがなかなか繋がらなくて時間がかかって報告したことを考えると、短時間で報告させていただいてよかったですと思います。職場の若い女性にも話したところ、早く送れたということで、ほかの方も良さを実感していただけたようです。</p>
<p>津谷市長</p>	<p>ありがとうございます。よかったですね。</p>
<p>佐藤正俊委員</p>	<p>関連して、私たちの地域には今朝の6時に放送があって、家内と二人でがっかりしました。何故かと私たちの地域のことを考えてみると、住民が年をとっ</p>

佐藤正俊委員	<p>ているからかな、もしかすると参加したことの報告のしかたに問題があるのかなと、二人で話していました。ファックスはない、携帯の使い方がよく分からないと考えたときに、大変なことだろうけれども自治会の誰かが回って、報告してくれるのが一番いいのかと思いました。高齢化の進む今の現状を考えると、目標を達成することは難しいような気がします。見ていると、ラジオ体操をしたり体を動かしてはいますので、先程言ったように、手間はかかりますが自治会の誰かが回って報告するのが参加率が上がっていくような気がします。</p>
藤野スポーツ振興課長	<p>まず、QRコードについては、今年初めて取り組み、報告数が約600件ありました。FAXも昨年指摘がありましたので、本庁総務課、教育委員会、体育館の3台で対応したところ、時間が過ぎてから送信されることはありませんでした。細かい分析はまだ終わっていませんが、農作業の方々の報告がほとんどされていないことが分かりました。それをどうカウントするのかと考えると、来年に向けた取り組みとして、佐藤委員の仰るとおり自治会長や民生委員の方々に報告補てんしてもらった方がいいと感じています。ほかに今のところ分かっているのが、昨年より買い物ウォークが400人少ないことで、一番カウントの見込める時間は4時～5時半ですが、4時には職員の配置が終わっているため、今後部局とも相談しながら1か所の配置人数も増やすなど試みたいと思います。あと、昨年はバスケットの競技がありましたが、今年は日にちがずれたので、その影響も大きかったと思います。それを除くと、実質的なところは昨年よりも参加率は高かったのかなと見えています。再度分析しながら来年度に向けての取り組みをしたいと思います。</p>
津谷市長	<p>先程、佐藤委員から話があったように、私の町内を見ていると、町内会の時にチラシを配って、当日体を動かしているのに報告していないですね。誰かが確認して届けるといった方法も必要になってくるのかなと思います。</p>
藤野スポーツ振興課長 津谷市長	<p>配るだけでなく、集める作業も来年の取組として考えたいと思います。</p> <p>ほかに何かございますか。</p>
佐藤教育長	<p>うちの市は高齢化しているのが特徴なので、買い物などで数を数えるのも一つの方法ですが、健康で長生きという視点からすれば、チャレンジデーと合わせて福祉と連携しながら、一人暮らしの御老人宅をこの日に訪問して、声かけして歩くような取組も来年は必要になっていくと思います。そうすれば、チャレンジデーに対して、運動するだけでなく、健康の管理も皆でしていこうという気運を高めるようなこともできるかもしれませんので、部局と連携していくようなことを考えていけませんか。</p>

津谷市長	本来は、チャレンジデー実行委員会として、市役所各部局の部長なども入っていますので、自分たちの方から声を上げてくれればスポーツ振興課長としては楽ですね。
藤野スポーツ振興課長	実は高齢福祉、保健センター、生活課と話はしていましたが、実施までできませんでした。来年度に向けて取組を見直したいと思います。
津谷市長	今年はQRコードが効果を出して、一歩前進しました。
佐藤正俊委員	チャレンジデーポストなど、ファックスもできないような人でも、名前を書いて入れて行くようなものがあればと、ふと思いつきました。
藤野スポーツ振興課長	今年は、内陸線主要駅、公民館などを含めて45か所においでます。自分で集めて届けてくれた自治会長が10人くらいありました。お願いしながら広く周知していきたいと思います。
津谷市長	いろいろなお願いの仕方をしながら、やっていきたいと思います。ほかにありませんか。
佐藤英樹委員	地域活性化にはいろいろな方法があると思います。スポーツの魅力で地域を活性化していくのは大きなメリットがあると思います。先程も課長から、予算が足りなくて合宿の希望はあるが受け入れられないと話があったので、残念だと感じました。
藤野スポーツ振興課長	言葉が足りなくて申し訳ありません。予算は、2口分ありまして、今まで1口分しか予定がなかったのですが、2口目が今年度に入ってから決まりました。それと相まって、問合せが2件入っています。それが実施されることになれば、予算措置しなければならないということです。今のところは充足しております。
佐藤英樹委員	私ども小さい時は、鷹巣町は陸上や野球などすごくスポーツが盛んで、あこがれの町であったと思います。市の予算には限りがあると思いますが、鹿角市などは旅館組合が予算を出し合って大会誘致している、来た方々が町にお金を落とすという好循環を生んでいる自治体もありますので、情報を発信してほしいと思います。100キロチャレンジマラソンも参加人数がだんだん落ちてきています。その原因を探りながらやっていただければ、もっとこの街に人が集まるような仕掛けができるような感じがしております。がんばっていただきたいと思います。



津谷市長	<p>ありがとうございます。予算の話が出たので、スポーツ合宿のように人に来ていただくと、泊まって、大学生のチームだとお金もある程度使っていただいたりがあるので、そういう意味では、申込みが多くなった時には補正するような形も考えていかなければならない。逆に、宿泊施設を営業されている方々にも手伝ってもらえないかお願いをしながら、受け入れてくれる所が増えてくれば、スポーツ合宿でも人が来てくれるんだなという気持ちを持って協力してくれると思うので、北秋田市全体を考えて力を入れたいと思ってます。</p>
藤野スポーツ振興課長	<p>100キロチャレンジについては、参加人数が1,500人を超えると運営上できないと言われてしています。これ以上超えると対応できない状況です。スタッフのボランティアも増やしてほしいと要望が出されています。</p>
佐藤英樹委員	<p>今、参加料を上げて、その経費をボランティアに還元しながらやっている大会もあります。そういう道も探っていく時期でもあるのかなと思います。</p>
藤野スポーツ振興課長	<p>選手からはそういう話もかなり出ています。大会の温かみを求めて参加している選手も大勢いて、ぜひ続けてほしいという声があります。ボランティアの数も飛び抜けて多い大会で、これをこのまま地域活性化につなげながら、選手も、地域も、宿泊もしていただければ地元にもいいということで、なくしてはいけない大会です。ただ、30年ほどになって当初のボランティアも高齢になってきましたので、次の世代のボランティア集めに悩んでいるところです。</p>
津谷市長	<p>それでは、スポーツ振興課関係はこれで終わらせていただきまして、先程来いろいろお話しがありましたので、今年度の事業に向けて施策を進めていただきたいと思います。</p> <p>次に(2)意見交換に入らせていただきます。各課の施策について御意見をいただきましたけれども、日頃感じていることなどがございましたらお話しただければと思います。何かございますか。</p>
藤本委員	<p>登戸(川崎市)の事件で、小学校の方からは1人ではなるべく歩かないようにとのメールをいただきました。小学校では、子ども自治会がしっかりしていて、分刻みで登校班ごとに安全に登校されていると思いますし、地域の方も信号の所に立って見守ってくださって、いいなと拝見しているところです。下校時については、時間割が違うこともあるし、特に高学年はスポ少に行ったり、児童クラブに行く子どももいたりで、私が車で通ると低学年の子どもたちが横いっぱい並んで楽しそうに帰っているのですが、楽しそうな反面心配になることがあります。親としても、子どもと交通安全について考えていかなければならないと感じています。</p>

津谷市長	これに関して、学校教育課長いかがですか。
小林学校教育課長	<p>なかなか頭が痛い部分です。今仰られたように、登校時は集団登校で決められた時間に間に合うように行きますので効果があって、安心安全だけではなく、縦割り班の違う世代の子どもたちの繋がりがすごくいいなと思っていますが、下校時は、終わる時間が違うことや、家庭によっていろいろなパターンがあるので、学校で見ることはできないと思います。一昨日ある学校の運営協議会が開かれて、校長先生からお願いがありますという話で、「1年生が帰る時に、多くの子どもは児童館に行きますが、歩いて帰る子が数人いる。見守りまでは地域にお願いできないのだけれども、お願いですから散歩をして下さい。」というようなことを言っていました。学校運営協議会の中で、地域で子どもをどう育てていくかという話合いの時に、そういう話題も出てくるのではないかと思います。地域の声、学校の声、保護者の声を、そういう場面を利用してやっていくしか今は手がないのかなと思っています。あまり回答になりませんが、糸口になればいいと思います。</p>
佐藤教育長	<p>今の件で、新聞社の取材を受けて私が話したのが載りましたが、大人がああやって刃物を持ってくると、防ぐ手立てはどうすればいいのか悩ましいです。予防とか防ぐ議論としてニュースにも出ていますが、そういう人を出さないとか、怪しい人がいたらすぐ通報するとか、そういう方向にいかないと、子どもたちに走って逃げろといっても誰かが犠牲になります。地域にそういう人が入ってきた時に、見つけて通報できるかは、警察との連携の方に視点を持っていかないといけないのではないかなと思っています。幸いにしてうちの市は、地域の人も顔が分かりますので、そのメリットを全面に出しながら取り組んでいくしかないのではないかと感じているところです。学校運営協議会とも連携してやっていきたいと思っています。</p>
津谷市長	ほかにございますか。
蒔苗委員	<p>働き方改革についてです。勤務時間の把握をしているということですが、仕事の内容そのものを制限するような形に今後するのかどうか。時間を制約すれば、仕事が今までの量だとなしきれなくなる訳で、仕事の内容を変えていかなければならないと思うのですが、それを先生たちが決めていいのか、それとも教育委員会なりが範囲を決めるのか、どういう方向になるのでしょうか。</p>
小林学校教育課長	<p>難しい話ではあるのですが、実は昨年、文部科学省の方で働き方改革に関するガイドラインのようなものが発行されています。その中で、今お話にあった</p>

小林学校教育課長	<p>仕事の内容で、本来学校がやるべきもの、学校だけがやらなくてもよいもの（先生以外の方でもできるもの）、学校の業務ではないものというように目安として出しています。この後、県でも、市町村の教育委員会でもこれを基にしながら考えていく必要があると思っています。ただ、これまで行ってきた慣習や、ここまで学校でやってくれたというイメージが各家庭にあるのも事実です。今まで学校でやってきたことを家庭にシフトした時に、なぜできなくなったのかという話に当然なっていくしますので、必要なこと必要でないこと、必要だけでも学校でやること家庭に任せること、合わせて考えていかなければならぬ、そして区分するには時間もかかるし、関係する方が集まって共通理解しないといけない区分になってくると思っています。まずは仕事の内容的なものもそうですが、先生方の時間外勤務時間を客観的につかんだ上で、ICTを使用した時には即時性があるので、随時、管理職から声をかけたり、先生方の仕事量の基礎データになったりすると思っています。時間外時間の把握と、働き方改革の教員の仕事は何かを、合わせて考えていかなければいけないと考えています。</p>
蒔苗委員	<p>そうすると、管理職の仕事はもっと増えるような気がします。</p>
教育長	<p>教員の仕事は時間で割りきれないことがたくさんあると思います。例えば生徒指導で、夜中まで付き合わなければならないこともあります。はっきり割り切れないこともあるのですが、要はその時にその教員に対して、管理職がどういう声かけをしたりサポートしてやれるかが、働き方の教員のポイントだと思っています。まずは数字を出せるような、中身を把握できるようなことができればと私も考えているところです。この問題は、教育長会議の中でも結論が出てこないし難しい、どの教育長も議会などで問われていると頭を抱えておりました。</p>
津谷市長	<p>ありがとうございました。</p>
佐藤正俊委員	<p>最後に一つよろしいですか。生涯学習課長の説明の中で、コムコムの入場者が80万人で、もうすぐ100万人になると言われましたが、その数字こそが入りやすい場、利用しやすい場になっている事だと思います。高校生たちも学習できる雰囲気になっているようで、休みの日もわざわざ来て勉強している子もいると聞いています。そういう場所を大事に、親も安心できる場であってほしいと思います。</p>
津谷市長	<p>休みの日など職員がいない時に、親が本当に安心する場であるためには、管理する人が安全安心の対策がとれるように、頭に入れておいて下さい。 意見交換はこれまでとさせていただきます。貴重な御意見をいただきありがとうございます。</p>

津谷市長	<p>とうございました。それでは、進行役を終わらせていただき事務局にお返ししたいと思います。</p>
小笠原教育次長	<p>津谷市長、進行ありがとうございました。</p> <p>次第の5.その他に入らせていただきます。案件以外に何かあればお願いします。</p> <p>ないようですので、以上をもちまして令和元年度第1回北秋田市総合教育会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。</p>

(午後3時36分 閉会)